

日语教学与 教材创新研究

——日语专业基础课程综合研究

主编 曹大峰

 高等教育出版社

3



H369.1

1

2006

日语教学与 教材创新研究

——日语专业基础课程综合研究

主编 曹大峰



高等教育出版社



图书在版编目(CIP)数据

日语教学与教材创新研究: 日语专业基础课程综合研究 / 曹大峰主编. —北京: 高等教育出版社, 2006.10
ISBN 7-04-019935-1

I. 日... II. 曹... III. ①日语—教学研究②日语—教材—研究 IV. H369

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 121690 号

策划编辑 祝大鸣 责任编辑 李 炎 封面设计 刘晓翔
版式设计 孙 伟 责任校对 李 炎 责任印制 陈伟光

出版发行	高等教育出版社	购书热线	010 - 58581118
社 址	北京市西城区德外大街 4 号	免费咨询	800 - 810 - 0598
邮政编码	100011	网 址	http://www.hep.edu.cn
传 真	010 - 58581000		http://www.hep.com.cn
经 销	蓝色畅想图书发行有限公司	网上订购	http://www.landaco.com
印 刷	北京宝旺印务有限公司		http://www.landaco.com.cn
		畅想教育	http://www.widedu.com
开 本	787 × 960 1/16	版 次	2006 年 10 月第 1 版
印 张	21	印 次	2006 年 10 月第 1 次印刷
字 数	360 000	定 价	28.60 元

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 请到所购图书销售部门联系调换。

版权所有 侵权必究

物料号 19935-00

郑重声明

高等教育出版社依法对本书享有专有出版权。任何未经许可的复制、销售行为均违反《中华人民共和国著作权法》，其行为人将承担相应的民事责任和行政责任，构成犯罪的，将被依法追究刑事责任。为了维护市场秩序，保护读者的合法权益，避免读者误用盗版书造成不良后果，我社将配合行政执法部门和司法机关对违法犯罪的单位和个人给予严厉打击。社会各界人士如发现上述侵权行为，希望及时举报，本社将奖励举报有功人员。

反盗版举报电话：(010) 58581897/58581896/58581879

传 真：(010) 82086060

E - mail：dd@hep.com.cn

通信地址：北京市西城区德外大街 4 号

高等教育出版社打击盗版办公室

邮 编：100011

购书请拨打电话：(010)58581118

本书获日本国际交流基金会资助

本书为以下项目成果

- 日语专业精读课教学改革研究
(北京外国语大学立项)
- 日语专业主干基础课“精读课”综合研究
(北京日本学研究中心日本国际交流基金资助项目)
- 日语专业精读课教材改革研究
(高等教育出版社·教材发展研究所立项)

前 言

随着中日两国经济和文化交流的日益深入,我国高等院校日语教育有了长足的发展,日语已成为学习人数仅次于英语的外语学科。但是,信息时代的迅猛发展,国际交流的不断扩大,特别是我国加入 WTO 后外语人才的需求,对当今外语教育提出了更高的要求,高等院校日语教育的现状已不能完全适应新的时代,亟需加大研究力度,通过教学、教材等方面的改革和创新实现质的飞跃。为了实现这一目标,我们选定高等院校日语专业教学课时最多的主干基础课——精读课(综合日语课)作为主要研究对象,由北京日本学研究中心牵头,邀请国内多所院校和研究机构的专家学者组成课题攻关组,启动了跨地区的综合性调查和研究项目——“中国日语教育主干课程‘综合日语(精读)’的综合研究”。在北京外国语大学和日本国际交流基金会的支持和资助下,在课题组全体专家学者的合作和努力下,在国内外有关学术组织、团体和学者的关心和鼓励下,经过三年的协作攻关,现已如期完成了预定的计划,取得了如下标志性成果:

1. 研制了国内第一个日语精读课教学研究数据库

该数据库由采访录音库(对学生的采访录音)、问卷调查库(六所大学日语专业师生的问卷数据)、教材语料库(四种主要精读课教材的全文语料)和教学录像库(五所院校日语教师的精读课教学录像)等四个子库组成,它不仅可为教学研究提供真实可靠的资料数据,而且还将为今后制定新的课程标准和课程要求、编写新的日语教材、改进教学方法和级别水平测试、与国外相关学科对比研究提供具体的参考依据。

2. 完成了日语精读课教学和教材改革的合作研究

通过学习和运用现代语言学和外语教学及语言习得研究的理论和方法,从多种角度和层面对调查数据进行定性和定量的科学分析,针对我国日语教育亟需探讨的问题对精读课展开实证性、探索性的综合研究,发表论文和研究报告 30 余篇,在教与学、教材等多方面提出了改革建议和创新方案,为构建适合我国国情的、高效而实用的日语教学理论、实践体系以及教材体系提供了新的启迪。

为了总结和交流上述研究成果,我们于 2005 年 3 月召开了以本项目为主题的小型国际学术研讨会,并在此基础上编辑了本论文集。论文集中收入了此次学术研讨会和国内外各种学术研讨会上发表的相关论文 23 篇,从各种角度反映了上述成果的具体内容。这些论文的作者基本来自课题组成员或协助者,有的是日本和中国的知名专家和教授,有的是刚刚步入研究领域的青年学者和教师。他们为本项目尽心尽力,做出了积极的贡献,对此我们谨致以诚挚的敬意和衷心

的谢意。

此外，论文集卷末还收入了项目简介、实施报告、问卷调查数据库简介、教材语料库简介、调查问卷中日文本全文等相关资料，较为详细地介绍了项目的立项背景、攻关目标、主要内容、参加人员、实施过程和相关成果等。其中调查问卷的部分内容参考借鉴了日本国立国语研究所平成12年度5年计划实施的“日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究”的问卷，对此我们再次表示感谢。

回顾北京日本学研究中心的发展历程，从前身的“大平班”到今天的“日研中心”，以日语教育为内容的专业教育和学术研究，经过了“教师进修班”和“在职硕士班”阶段进入了“专业硕士班”的新阶段，不仅教学层次不断提升，而且研究水平也逐渐与国际接轨，本项目的完成和本论文集的出版就是一个具体的体现。在职硕士班的日方派遣教授与中方教授紧密协作，对本项目的策划、立项、实施和结项工作提出不少指导性建议，做出不懈的努力。在小型国际研讨会的策划组织和论文集的组稿编辑方面，国际交流基金日本語国际中心的派遣教授篠崎摄子老师和来自西安交通大学的客座研究员张文丽老师做了大量的工作，其工作热情和成绩令人赞赏。另外，参加论文集审稿工作的还有担任小型国际研讨会分科会主持人的于日平、翟东娜、赵华敏、冷丽敏等各位老师，对他们的热诚合作一并表示衷心的感谢。

在此，我们要感谢日本国际交流基金会对本项目实施和论文集出版给予的大力资助。同时，对积极参与本项目研究活动和大力支持论文集出版工作的高等教育出版社祝大鸣先生也表示由衷的谢意。

最后，衷心希望本论文集能够为从事日语教育及其研究的广大日语教师和研究者提供一些新的信息和经验，也诚挚地欢迎各位专家同行对我们的研究提出宝贵意见和指教，使本项目的研究为促进我国的日语教育事业的发展起到积极的作用。

北京日本学研究中心

曹大峰

2006年春

目 录

综合研究

中国における日本語教育の課題 ——聴解と作文に焦点を当てた教授法の開発——	岡崎眸 1
日本語教科書データベースの構築とその応用研究	曹大峰 16
日语精读课教材语料库的构建与应用研究	曹大峰 26
中国の日本語教育における諸問題についての考察	蔡全胜 37
从综合日语课研究看日语专业学科发展	王婉莹 48

语法词汇研究

中国日本語教科書における用言活用の扱い方について ——四つの教科書を中心に——	翟东娜 54
中国の日本語教育のための文法説明 ——感情形容詞文を中心に——	于日平 67
大学日语专业精读教材中的语法系统	彭广陆 82
教科書では<テイル>がどのように取り扱われているか	張文麗 98
語用論の視点から中国の日本語教材への一考察 ——「たい・てほしい」による発話行為の扱い方を中心に——	周新平・陳俊森 111

精読教科書における連語と慣用句の使われ方	朱京偉 128
----------------------------	---------

关于外来语基本词汇的考察

——从日语教育基本词汇出发——	周 菁 141
-----------------------	---------

教材研究

精読教材の本文について	篠崎摂子 151
-------------------	----------

浅谈新型日语专业立体化教材建设

——借助现代教育技术, 开创立体化新模式	祝大鸣 李炎 157
----------------------------	------------

基礎段階用日本語教科書における練習問題について

——中国国内で編集された教科書を中心に——	趙華敏 165
-----------------------------	---------

精読教材に見られる翻訳練習

——ディスコースの視点から——	松浦とも子 175
-----------------------	-----------

コミュニケーション能力の育成という観点から精読教材のあり方を考える

.....	王文賢 184
-------	---------

教学研究

精読プロジェクトアンケート調査にみる教師の視点と学習者の視点

.....	浜田麻里 193
-------	----------

中国人日本語教師の資質に関する一考察

——教育実践の中で培われた理論を探る——	阿部洋子 202
----------------------------	----------

「総合日本語(精読)」における学習活動と教授ストラテジー

富谷玲子 213

关于“综合日语(精读)”的认识调查

——学生与教师之比较——	冷丽敏 227
--------------------	---------

日本語の教授と学習の現状と問題

——精読に関する総合研究のアンケート調査から見た場合—— …… 楊峻 244

総合日本語（精読）と大学日本語専攻四級試験の相関性についての考察

…………… 侯仁鋒・宮本晶子・唐曉艷 254

附 録

1. プロジェクト概要……………	263
2. 共同研究プロジェクト報告書……………	266
3. 質問紙調査集計データ（試用版）解説……………	274
4. 日本語教科書データベース（試用版）仕様書……………	277
5. 問卷調査（学生用）……………	282
6. 問卷調査（教師用）……………	295
7. アンケート調査（学習者用）……………	300
8. アンケート調査票（教師用）……………	314

執筆者一覧表…………… 319

Contents

Comprehensive Research

- A New Approach to the Teaching of Japanese in China
—Focus on Listening and Writing— Hitomi Okazaki 1
- Research on Construction and Application of Textbook Database
for Japanese Cao Dafeng 16
- Research on Construction and Application of Textbook Corpus for
Japanese Intensive Reading Cao Dafeng 26
- On Several Problems in the Education of Japanese in China
.....Cai Quansheng 37
- Comprehensive Japanese Course and Development of Japanese as a
Specialty Wang Wanying 48

Research on Grammar and Vocabulary

- The Analysis of Verbs in Four College Textbooks for Japanese Majors
..... Zhai Dongna 54
- Grammatical Explanation in Japanese Education in China —On the
Sentences Whose Predicates Are Emotion Adjective— Yu Riping 67
- Grammatical System in College Japanese Textbooks of Intensive Reading
..... Peng Guanglu 82

On Presentation Forms of <teiru> in Japanese Textbooks
..... Zhang Wenli 98

A Survey of Textbooks for Japanese Majors on Pragmatics
—Focusing on Treatment of Speech Acts Expressed by “tai・tehosii” —
..... Zhou Xinping Chen Junshen 111

The Uses of Phrases and Idioms in Japanese Textbooks of Intensive
Reading Zhu Jingwei 128

A Survey of Basic Vocabulary of Loan Words
—From the Basic Vocabulary for the Japanese Language Education—
..... Zhou Qing 141

Research on Teaching Material

Main Texts in Japanese Textbooks of Intensive Reading
..... Setsuko Shinozaki 151

A Brief Account of Construction of New-type Integrated Textbooks
of Japanese
—Developing Integrated Mode by Modern Teaching Technology
..... Zhu Daming Li Yan 157

Exercises in Japanese Textbooks for Elementary learners
—Focus on Textbooks Composed in China—..... Zhao Huamin 165

Translation Practices in Intensive Reading Textbooks
—On Discourse Rhetoric—..... Tomoko Mtsuura 175

A Communicative Approach to Japanese Textbooks for Intensive Reading
..... Wang Wenxian 184

Educational Research

Teacher and Learner Views: Analysis of Results of the Questionnaire
on Research Subjects of Intensive Reading..... Mari Hamada 193

A Study of the Qualification of Chinese Teachers Teaching Japanese
—On Theories Discovered through Teaching Practice— Yoko Abe 202

Learning Activities and Teaching Strategies in *Comprehensive Japanese*
(*Intensive Reading*) Reiko Tomiya 213

Investigation on Cognition of *Comprehensive Japanese* (*Intensive Reading*)
—Comparison Between Students' and Teachers' — ... Leng Limin 227

Current Situation and Problems in Japanese Teaching and Study
—Based on Result of Questionnaire on Integrated Research on
Intensive Reading Course— Yang Jun 244

Review on Correlation between Japanese Intensive Reading Textbooks and
Band 4 Test for Japanese Majors
..... Hou Renfeng Akiko Miyamoto Tang Xiaoyan 254

Appendices

1. Introduction to the Project.....	263
2. Report on Co-research Project.....	266
3. Introduction to the Database of Questionnaire.....	274
4. Introduction to the Textbook Corpus.....	277
5. Questionnaire (for students) (Chinese).....	282
6. Questionnaire (for teachers) (Chinese).....	295
7. Questionnaire (for students) (Japanese).....	300
8. Questionnaire (for teachers) (Japanese).....	314

List of Writers 319

中国における日本語教育の課題

——聴解と作文に焦点を当てた教授法の開発——

中国的日语教育课题

——关于听力与作文教学法的开发——

A New Approach to the Teaching of Japanese in China

—Focus on Listening and Writing—

□ お茶の水女子大学 岡崎眸

摘 要 笔者认为，当前中国日语教育的课题之一，是开发以一般学习者
为对象，能够培养其日语运用能力的新的教学法。以听力和作文为
轴心，笔者对教学法的开发进行了阐述。第一，为使听力活动更好
地为第二语言打下牢固的基础，应在活动中促使听者根据自己的
目的，边预测边积极主动地去听。第二，作文活动应促进语言的习
得和思维的深化。为实现这一目标，须在作文活动中促使作者意识
到读者的存在，并反复斟酌自己的写作意图。针对上述两点，笔者
分别介绍了相关的听力教材和听力活动，以及学生之间互相推敲
初稿的作文活动。

关键词 運用力、聴解スキル、聴解ストラテジー、協働作文、ピアレスポンス

1. はじめに

中国では、グローバル化の進行や高等教育の大衆化により、日本語学習をめぐる状況が近年大きく変化してきている。日本にとっては、経済的にはアメリカを超えて第一位の貿易相手国となり、モノだけでなくヒトの交流も活発化してきている。こうした中で日本語教育の現場では、日本語を現実場面で使って何事かを成し遂げる力、日本語の運用力の養成が重視されるようになった。また、日本語の学習人口の増加もめざましく、大学教育の大衆化と相まって、かつ

での「優秀な言語学習者」といわれるような一部のエリート集団だけでなく、多くの「普通の人々」が第二外国語として日本語学習を始めている。

このような動きを受けて、中国における日本語教育の今日的課題は、次のようにまとめることができるであろう。

- ・ 優秀な言語学習者ではない、極普通の学習者を対象とした
- ・ 日本語教育の目標を日本語の運用力の養成におく
- ・ 新たな教授法を開発すること

2. 新たな教授法の開発に向けて——第二言語習得を促進する聴解と作文

新たな教授法の開発に当たって、まずは、第二言語習得の促進をどう図るかを中軸に据えることが重要であろう。第二言語習得の特徴を端的に表現するものとして、「自分の現在の言語能力を僅かに超える言語資料を言語内外の情報を活用して意味上理解できたときに、言語習得が進んだと言える」、さらに、「第二言語習得においては（第一言語習得と同様に）、理解が先行し、産出は後続する」（Krashen 1985）というクラッシュェンのインプット仮説（input hypothesis）を挙げることができる。ここでいう「理解」とは、未習の文法項目や未習語彙が含まれている言語インプットであっても、その言語インプットの周囲の状況や読み手・聞き手が持つ既有知識を利用することで、何とかその意味が分かるという場合における理解を指す。そして、このときの言語インプットがその人にとっての理解可能な言語インプットである。自分の目や耳にする言語インプットが、そのままでは未知の文型や語彙が含まれていることで理解困難であるが、周りの状況や背景知識を総動員することで、自分にとって意味を成してきたとき、当該インプットは理解可能なインプットへと変化し、そこで、その人のもっている言語の力はある段階から次の一つ上の段階へと進むこと、すなわち、言語習得が促進されるという考えである。このような第二言語習得についての考え方をさらに一歩進めたのが、「第二言語習得は意味的理解から統語的理解へ進む」というスウェインの説（Swain 1985）である。スウェインは理解可能なインプットを活用した理解が蓄積されるだけでは、意味的理解はできても統語的理解はできないこと、そして、意味的理解に留まる限り、中級レベルから次の上級レベルへと言語能力を飛躍させることは難しいことを主張した。この

意味的理解を統語的理解へと引き上げるのが、書いたり話したりするという言語の産出であるとして、クラッシュェンのインプット仮説に対して、アウトプット仮説を提起した。読んだり聴いたりにおいては、周りの状況やあるいは背景知識を活用して内容上の理解を図ることが可能である。しかし、書くこと・話すことにおいては、当たり前であるが、単語をその言語の規則にのっとって横に並べなければならない。単語をただ並べただけでは、その並べ方が文法規則に合致していない限り相手に分かってもらえないことが多い。たとえ、分かってもらえるとしても、簡単なことに限られ、複雑なことは伝えられない。複雑な内容を誤解なく伝えたい、相手と対立点を鮮明にし、議論を深めたい、などといった場合には、適切に単語を選び、それらを適切に並べる必要に迫られると言える。話す・書くという産出において、ひとは自分が言えることと言いたいことのギャップを自覚し、既に自分のものになっている文法規則とまだ知らないあるいは曖昧な文法規則の区別が明確になる。そして、何より言語の示す規則に敏感になる。

このように考えると、言語習得の促進にとって、次のようなことが順を追って重要になってくることが分かる。

- | |
|---------------------------|
| 1. 話し言葉を聞いて分かる。 |
| 2. 書き言葉を読んで分かる。 |
| ↓ ↓ ↓ ↓ |
| 3. 話し言葉を使って自分の言いたいことが言える。 |
| 4. 書き言葉を使って自分の書きたいことが書ける。 |

話し言葉や書き言葉を聴いたり読んだりして分かるということが言語習得の土台部分を創りだし、それに対して話し言葉を使う、書き言葉を書くということが言語習得をより高い段階へと飛躍させると言える。すると、言語を4階建ての建物に喩えると、聴解は「言語の1階部分」を、作文は「言語の4階部分」を創り出すという点で、第二言語習得の促進においてどちらも極めて重要な役割を果たすと言えよう。

ところが、教育の現場ではこうした重要性はよく理解されているだろうか。逆に、なかなか理解されないというのが現実であろうと思われる。例えば、海外の日本語教育の現場でよく耳にすることであるが、聴解については、

「聴解はテープを聴かせて答え合わせをするだけだから特に日本語教育の専門家でなくても誰でも教えることができる。」

という声が、また、作文については、

「宿題として書かせたものを訂正することが作文教師の仕事であるから、それは、日本語母語話者の担当がよい。」

という声を聞くことがしばしばある。新しく学ぶ言語の土台部分を創るためには、たくさん聞いて分かるという学習が不可欠だという理解が足りない。また、正しく適切な産出ができるようになるためには、自分の言いたいことを言い、書きたいことを書くという学習が不可欠だという理解が足りないと考えられる。時代の要請に応える新しい教授法の開発に当たっては、こうした声は再検討の余地があることを、聴解と作文をめぐる活動の具体的例を通して検討し、第二言語習得を促進する聴解活動と作文活動のあり方を提案することで、新たな教授法開発へのヒントとしたい。

3. 新たな教授法の開発に向けて

3. 1. 聴解活動

聴解活動には大きく分けて二つのタイプがあると考える。議論をしやすくするために、この二つをひとまずタイプA聴解、タイプB聴解と呼ぶことにする。タイプA聴解では、目で学んだ日本語がどう聞こえるかを耳で確かめることが主な目的となる。例えば、「私は中国人です。学生です。上海から来ました。」という基本文型を教科書で文字を見ながら学んだとしよう。するとその後で、今度はその文型の音声テープを聞くことで、文字と日本語の音を結びつけることが聴解の場で目指されるのである。こうした活動は中国でも今なお広く使われている聴解活動のタイプではないだろうか。

他方、タイプB聴解は、聴く力を育てながら言語習得を促進することが目的とされるもので、近年日本語教育の現場でもみられるようになったとは言え、未だタイプAほどは普及していない。

それでは、この二つのタイプの聴解活動は現実にはどのように違うのだろうか、①使用するテキスト（聴くテキスト）と、②練習のあり方の二点から対照しながら考察を進めたい。まずテキストについてみてみよう。タイプAでは以下のようなテキストがよく使われる。

テキストA: タイプA聴解でよく使われるテキスト。